

第5回 勝海舟記念

下町(浅草)

がん哲学 外来

シンポジウム

“がん”によっても
“がん”では死によい!

生きることの素晴らしさを考える
浅草からのメッセージ

スカイツリーと墨田川を懐くこの街で、
われ、浅草～墨田の
“がん哲学”の礎となる

平成26年(2014年)テーマ

“生きがい”

開会 13:00

13:05 ~ 13:20 浅草は熱い!! みんなで支える多職種連携在宅医療。

13:20 ~ 14:10 専門医が語る癌治療最前線(乳がんと婦人科領域のがん)

14:10 ~ 15:20 浅草の緩和ケア / 廣橋 猛 医師 安達昌子 医師 倉持雅代 看護師
(永寿総合病院) (慶應義塾大学病院、野中医院) (浅草医師会立訪問看護ステーション)

15:20 ~ 15:35 癒しの朗読のひととき

15:35 ~ 16:20

特別招聘講演: 金子稚子氏 (2012年10月に亡くなられた流通ジャーナリスト金子哲雄氏の奥様)

テーマ 「死ぬことと、生きることは同じ」

2012年10月に亡くなった流通ジャーナリスト金子哲雄の闘病とその死に寄り添った経験から見てきたことを話します。誰もが「死」に恐怖を感じます。しかし、どんなに怖れていても、どんな人であっても、必ず「死」は果たさなければならないものです。その時、金子哲雄はどう変わっていったのか、周囲はどのように支えていたのか、多くの人が亡くなっていく多死社会を前に、「死ぬこと」について、正面から考えます。

金子稚子(かねこ・わかこ)

ライフ・ターミナルネットワーク代表

2012年10月に亡くなった流通ジャーナリスト金子哲雄の妻。前職である雑誌・書籍の編集や広告制作の経験を活かし、誰もがいつかは必ず迎える「その時」のために、情報提供と心のサポートを行うべく活動中。夫の死後、小学館から出版された『僕の死に方 エンディングタイアリー 500日』(金子哲雄著)でも執筆並びに編集制作補助に携わった。当事者の話でありながら、単なる体験談にとどまらない終末期から臨終、さらに死後のことまでをも分析的に捉えた冷静な語り口は、医療関係者、宗教関係者からも高い評価を得て、各学会や研修会でも講師として登壇している。また、近著に『金子哲雄の妻の生き方』(小学館)、他に「死後のプロデュース」など。静岡県生まれ。一般社団法人日本医療コーディネーター協会顧問。医療法人社団ユメイン野崎クリニック顧問。

16:20 ~ 金子稚子氏 樋野興夫 医師 安藤潔 医師 安達昌子 医師
(順天堂大学) (東海大学) (慶應義塾大学、野中医院)

16:40 ~ JAZZ演奏

17:00 閉会

参加費
無料

平成26年 12/20(土) 13:00~17:00

場所

浅草三業会館

(浅草 柳通り見番 2階大広間) 東京都台東区浅草3-33-5 ☎03-3874-3131

対象

“がん”とともに生きている方・家族の皆様、
医療従事者、行政担当者、
その他がん哲学外来に興味のある方

運営
コア
スタッフ

倉持雅代 (看護師)
土屋千雅子 (薬剤師)
宮原富士子 (薬剤師)
村上美恵子 (看護師、ケアマネージャー)
西澤文恵 (ケアマネージャー)

主催：勝海舟記念下町・浅草がん哲学外来 | お問い合わせ先 (担当:みやはら) : TEL03-3876-1506 / FAX03-3876-9084

共催：浅草かんわネット研究会 NPO 法人 HAP (Healthy Aging Projects For Women) NPO 法人マイウェイ協会